

流山稲門会

【交譲葉】俳句の会 報告

令和五年八月句会（第二三五回）

兼題 「踊り」

開催日 令和五年八月二十六日

開催場所 流山市生涯学習センター

出席者 七名

投句者・選句者 七名

（四点句）

●かへらぬを嘆くなかれと蟬しぐれ 寿歩

選評：作者は寺で御坊様の話が印象に残り句にしました。

上五を平仮名にして、主体が亡き人か、生きている人か、あるいは物であるの か広く解釈できるところが良いと思います。（玄鳥記）

●陽に透けぬ一房迷う葡萄園 寿歩

選評：秋、収穫の季節。たわわに熟した葡萄園に入る作者。

この句の中句「一房迷う」の言葉が、キーポイントで、それも陽の光の透けない一房である。それに出会った時の嬉しさが目に見える様である。まさしく経験による瑞々しい一句です。（互酬記）

（三点句）

●盆踊り見よう見まねの異邦人 互酬

選評：最近は踊りの輪に外国の人びとを見ることは珍しくない。日本独特のあの手つき足さばきを見よう見まねとは正射を射ていて上手いと思う。（小牧記）

●炎熱や老練の技作品展 夢心

選評：高温の日々が毎日続き、マスコミは高齢者の健康を注意しています。長年培ってきた熟練の技を今年も披露する。この作品展が大きな生きがいとなっているはずです。暑さにめげず、作り上げた展示会の様子が目に浮かんできます。（艸寛記）

●小神輿こわごわ触れるもみじの手 互酬

選評：幼児にとつて祭りそのものが日常と違う世界で、神輿も普段なじみのない物であろう。神輿

のかたち、装飾、わけても金銀朱等の光る色等、何か不思議なもので興味深くもあり、ちよつと怖い物でもあろう。だけど何か魅力的なのだ。だから幼児は触つてみたくなる。句はこの心理と行動を上手く描写した。（徹心記）

●立枯れし野菜畑や極暑今 小牧

選評：今年の梅雨はまとまった雨が降らなかつたように思う。散水も間に合わず立枯れていく野菜。何といつてもこの暑さだ。猛暑、酷暑を通り越して暑さもここに極まったと言いつつた下五が潔い。極寒は時々目にするが極暑は珍しい。（夢心記）

（二点句）

浴衣着て母と踊るや夜は更ける 艸寛

三世代揃つて踊りの輪の中に 夢心

（一点句）

盆をどり阿呆のひとりとなりけり 玄鳥

盆踊アニメソングの力借り 寿歩

休み明け新涼似合う君の顔 艸寛

ひも付けて風鈴鳴らすマイナンバー 互酬

（投句）

初踊りばあばあ「婆」と手を振つて見せ 小牧

AIの画像師匠に盆踊り 徹心

チャットしつつ素麺する昼餉哉 徹心

冷夏なる言葉遠く四季遠し 小牧

丸刈りのスクイズ失敗終戦日 玄鳥

帰省途次見知らぬ町を歩きけり 夢心

爪弾きのコードもれ秋に入る 玄鳥

盆踊りサンバの地でも大受けし 徹心

翺雲筑波の山頂泳ぎけり 艸寛

『句会後記』

三十五度の炎暑の中全会員七名が出席し、恒例の通り進行された。四点句二句、三点句四句の作者の自句、自解と全員での意見交換に始まり、その他全句が討議された。

いつもの事だが、より良い語順・語句が提案されたり、知らなかつた事項や語句の蘊蓄もあり、全員の俳句に対する熱い思いで室温も上昇したかの充実した時を過ごしたのだった。（徹心記）